

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271102347		
法人名	有限会社 シャローム		
事業所名	グループホーム希望の家		
所在地	長崎県西海市西彼町小迎郷1074-3		
自己評価作成日	平成30年8月6日	評価結果確定日	平成30年10月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&jigyosyoCd=4271102347-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成30年9月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①「夕暮れ時に輝く人生」を理念とし「入居者が主役、スタッフは脇役」の標語のもと、尊厳をもって介護をしている。
- ②海と山とミカン畑に囲まれた1000坪の広々とした土地にありながら、国道やスーパーにも歩いて行けるので利便性がある。
- ③キリスト教理念で経営しており、納骨堂を完備している。牧師がいるので、希望すればチャペルでの葬儀も可能である。
- ④看護師・介護員が連携したターミナルケアに取り組んでいる。
- ⑤血液サラサラ食である野菜・海藻・イモ類を中心に、朝昼晩ともに1汁3菜に果物を付けた献立を工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム希望の家は、山のふもとでの広々とした土地にあり緑に囲まれた環境である一方で、西海市の国道とその周辺にあるスーパーに近く利便性の高い場所にあり、自然の豊かなゆつたりとした環境と利便性を兼ね備えた立地である。食事への配慮が特徴的であり、アメリカのニュースタート健康法を取り入れ、肉を使わない野菜中心の献立で一汁三菜に果物を付ける事を基本とし、毎食6品提供している。対面型のオープンキッチンで職員が入居者の目の前で調理しており、調理の音や匂いなどが家庭的な雰囲気を作り出している。また、入居者の地元を訪問する「ふるさと訪問」を年に一度行っており、入居者の家族やこれまでに築いてきたなじみの人との関係を継続するための取り組みを行っている。ケアプランについては具体的な支援内容のチェック表を個人ごとに作成し、チェック表の達成度をもとに支援内容が適しているかどうかの検討を毎月行っている。さらに、どの職員にも支援内容がすぐ把握できるよう、個人別の支援内容を一覧にしたものを作成し、職員がいつでも見られるよう支援記録に綴じるなど工夫されている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の唱和を利用して日々の仕事を意識することで実践につなげている	「夕暮れ時にも輝く人生」の理念のもと、入居者が人生の終わりの時期を自分らしく過ごすために、朝礼時に理念の唱和や言葉使いのチェック、ユニット毎の目標をスタッフ間で確認などの取り組みをしている。	理念を具体化するために具体的な支援の実践チェック表を作ったり、理念を実践した事例を発表する場を設けるなど、理念の具体化とスタッフ間の共有について今後の取り組みを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者のレベルが重度化している為、交流は無理がある	年に一度の事業所主催の夏祭りや、2か月に一度の運営推進会議の際に地域の方との交流の機会となっている。また、地域の保育園から運動会見学の声掛けがあるなど、相互に関わりあう関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回その都度テーマを変えてグループホームの現状を報告し、取り組んだ研修発表も行っている	今年度は4回開催済みで、10月と12月にそれぞれ異なるテーマで2回開催予定となっている。年に一度、昼食試食会を行ったり研修報告、行事報告を通して現状を地域の方へ伝えている。議事録を市役所へ提出し、市への報告も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の方も参加されるので、情報交換を行っている	運営推進会議の際に、市の担当職員とお花見や観潮会の時期相談やインフルエンザの状況確認、人員不足の相談等をしている。社協にも社内研修の講師を依頼したり、待機者や入居状況の情報交換をすることで、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないが、必要に応じてセンサーを使っている為、家族に同意書を頂いている	玄関とユニット間の鍵、居室のセンサーは夜間のみ使用しており、玄関は朝8時半から19時半まで自由に出入りできる。社外の身体拘束研修を受けており、特に「言葉の暴力」については意識が高く、朝に唱和を行ったり不適切と思われる場合にはスタッフ間で互いに注意したりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に委員会で勉強会を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	その機会がない為行っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに意見箱を設置しており、来所された際に要望などあれば相談に応じている	エレベーターホールに意見箱を設置しているが、家族から意見等が入ることは少ないため、家族が来所した際に意見を促す声掛けを行っている。また、日々の支援の中で入居者の思いをくみ取り、入居者間のトラブルを防いだり要望を叶える支援をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、管理者と職員の面接を設けている	年に2回、役職者とスタッフの面談があり、理念の解釈の確認や悩みの聞き取りをしたり、スタッフの自己評価と管理者評価のギャップに着目し支援の向上のための話し合いなどを行っている。面接時以外にも、スタッフミーティングや気づいたときにその都度スタッフが意見や提案を言いやすい雰囲気である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の設備に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修年間計画を立て、外部研修は勤務状況に応じて参加している。また外部から講師を招き研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回ほど同業者との交流を計画しているが、状況により交流できない時がある 市の委員会に参加している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉に耳を傾け要望等を聞き、関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時にどうあって欲しいか等伺っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意見も取り入れ、カンファレンススタッフミーティング等で意見を出し、情報を共有する事でその人を見極め、より良いサービスを提供できるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何事に対しても必ず説明をし同意を得て行動しているので関係は出来ている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時は話題を共有し、家族と共に支えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問を行い、その人の住んでいた土地等を訪れ、関係が途切れないようにしている	年に1～2回、入居者の家族に許可をとり、他の入居者と一緒に自宅や地元周辺を訪れる「ふるさと訪問」を行っている。公用車を見て地域の方が話しかけてくることもあり、地元の方との交流の機会となっている。家族に会えなかった場合も訪問後に報告をしており、入居者と家族、地元の方々を繋ぐ役割をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症を患っている為、他の方を支えたり出来る人が少ない		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	会う機会があれば近況を伺ったり、相談にのったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えに耳を傾け、その時の状況で対応している。その方の状況によって選択していただいたりと、対応を変えている	日々の支援の中、きちんと目を見て話をしていく。入居者の表情やしぐさで、気持ちを汲み取り、距離を置かず毎日笑っていただくことを心掛けている。入所時のアセスメントや介護計画書にて意向の把握を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に詳しく情報を聞き、会話を通して生活歴の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様々な手作業を通して有する力は観察できている。スタッフ間で気になる言動は報告し合い、入居者の変化に気づけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、担当者がそろって話す機会を設けている。定期的に本人の状態をご家族へ伝え、家族の希望、本人の希望にも耳を傾け、ケアに取り入れている	介護計画をチェック表と一覧表に落としこみ、支援の目標を現場でわかりやすく、把握・共有できるような工夫をしている。更新時には本人家族の意向を伺い、月に1回担当者が、モニタリングを行なっている。広報誌「希望の家便り」でその内容を家族へ伝えている。現在、自身でリハビリを行ないたいとの意向がある方のプラン変更を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月モニタリングやミーティングを行っている 毎日申送りでのスタッフへの引継ぎを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族にとって一番いいサービスを提供できるように、様々な意見をスタッフ間でも検討し、納得いくものになるよう努めている。希望にそったサービスというものを一番に考えている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の利用は出来ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医は決まっているが、家族の希望を生かし選択できるようになっている	入所時に施設の協力医院の説明は行っているが、入所前のかかりつけ医との関係の継続性も尊重している。基本的に定期受診は家族にお願いしているが、緊急時等は事業所が対応している。その際は管理者が家族に連絡をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の朝礼時に施設看護師への報告を行っている。入居者の状態をみてもらい、受診のアドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療機関との連携を密にして、治療または早期退院に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	健康状態の悪化が見られた際は家族へ連絡を行い、今後のケアの方向性等を話し合う機会を設けている	看取りも行っており、入所時に説明をしている。食事が摂れなくなったりと、重度化に伴い主治医を中心に家族と話し合い、終末期をどう過ごされるかを話し合っている。同意書や利用者個別の独自のマニュアルがある。急変時には管理者へ連絡が入り、新人スタッフもサポートを受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法マニュアルを備えており職員が見れるよう準備している。消防署より心肺蘇生の講義を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	職員で構成される防災委員会が主体になり、避難訓練や必要備品の整備等を定期的に行っている	防災委員会を中心に年3回の火災非難訓練と1回の防災訓練を行っている。内1回は消防署の立会いもある。地元の消防団とも避難訓練を行っている。災害時はエレベーターを使えないものと想定し、階段のみを使った非難訓練を行っている。備蓄品も水・乾物・ガスコンロ・携帯トイレと備えている。事業所が小高い場所にあるので、地域の方々の避難場所に提供できるとのことだった。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方その方に合わせた言葉を選び、尊厳を重視し声掛けを行っている	入居者を名前ではなくきちんと名字で呼ぶこととし、廊下には人格の尊重に関する標語を掲げている。排泄に関してもプライバシーを損ねないような声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人の行動や表情を見たり尋ねたりして、自己決定が出来るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活リズムを崩さないようにしながらも、その方のペースを守りつつ支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行っている	共有リビングとキッチンが対面しており、料理をする音や匂いが五感を通していい刺激となっている。食材も肉を使わずに大豆たんぱくにて代替え工夫し、米は五分付き胚芽、砂糖は三温糖と健康に留意している。三菜一汁の目にも鮮やかな食事提供を行っている。刻みやペーストといった入居者一人一人に対応した食事形態となっている。時間はかかるが殆どの入居者が、自身で食し完食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が摂れない時は介助にて摂って頂き、水分も一日の摂取量が把握出来ている。少ないときは声をかけ、摂って頂くよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人その人に合わせた口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの身体及び精神面を考慮し、無理のない支援に取り組んでいる	尿意の訴えがある方が多く、昼は布パンツを着用している。できるだけ定時誘導の声掛けを行っている。排泄チェック表には排泄量だけではなく、飲水の量も記録し、入居者の水分量についてインとアウトを把握している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便コントロールに努め、チェック表に基づき水分調整や献立の工夫、その方に応じた予防運動など、早めの対応に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調確認の後、本人の希望や衛生面を考慮しつつ、気持ちよく入浴して頂けるような雰囲気作りを心掛けている	浴槽には週に5日、お湯を張っている。リフト浴を導入してからは、今まで浴槽まで入れなかった入居者が、入浴できるようになり、心地よく温まることができている。体調が悪い時には、清拭や足浴で対応している。入浴の拒否がある時には、スタッフを変えたり、時間を置いたりして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や身体面、希望に重視した休息の場を提供している 居室内の環境も整え、落ち着ける場所作りに努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬管理の徹底と日々の健康チェック、服薬品による体調の変化、効能等の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や身体、能力に応じた内容を把握しつつ、楽しみながら出来ることをみつけている(日常生活・家事の取り組み等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季の移り変わりや地域活動等への参加に努めている ドライブ、家庭訪問、行事参加、夏祭り、敬老会、花見など	あじさいロードの見学や、年に1回社協の車を借りて遠方までドライブへ出かけている。事業所主催の夏祭も地域の人々へ声掛けを行い、夕方から夜間にかけ屋外で、屋台や花火で夏の風物を楽しんでいる。年に一度の敬老会は家族を招き近隣のホテルで大きな規模で行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方に応じて現金を持っていただき、安心感を与えている。実際に買い物に行かれています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話は対応できている 手紙を書く事は出来ないが、家族から定期的に届いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩の途中で見つけた草花を飾り季節感を感じて頂いている(居間、食堂) 共用の空間では異臭等がないよう気を配り、快適に過ごして頂けるようにしている	リビングは広く明るく、日中は入居者が集まり、ジグソーパズルや思い思いの手作業・TV鑑賞をしている。ユニット毎に異なるBGMを流し、居心地の良い雰囲気をつくっている。お手伝いができる入居者には、ホールの掃除や食材の下ごしらえ等のお手伝いをお願いしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを観る方、手作業をされる方など思い思いに過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具等を持ち込んでいただいている(仏壇、家具など)	居室には孫の結婚式や家族写真が飾ってあったり、読書が趣味の入居者は本をたくさん持参したりして自宅と同様な趣にしている。多くの入居者はあまり物を置かず、すっきり生活している。居室は衛生的で、昼間はポータブルトイレにカバーをかぶせ、目隠し等の配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	電気のスイッチ、トイレの表示、居室の目印など一人ひとりがわかるようになっており、自立した生活の支援をしている		